



TITLE:

米洲行日誌(10)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 米洲行日誌(10). 天界 1938, 18(204): 175-180

ISSUE DATE:

1938-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167645>

RIGHT:

## 米 洲 行 日 誌 (10)

京都帝大教授 山 本 一 清

## 1937年6月20日(日曜日)

午前中、富田謙一氏來訪、明日の大學講演の通譯につき依頼した。

午後は岸氏の厚意により、4人で郊外をドライブし、カヤオ、ラプンタ、ミラフロレス、マグダレナあたりを見た後、チヨシカまで行き、日没頃歸宿した。珍らしく呑氣な一日であつた。

## 6月21日(月曜日)

今朝10時15分頃、遠方の大地震らしいものを感じた。それで、急に思ひついて當國唯一の地震學者ヨナ博士を訪ねることとなり、14時から4人でミラフロレスの博士邸に出かけたが、まもなく立石氏も來會した。博士の研究によれば、今朝の地震は北方トルヒーヨ附近だとのことである。博士邸では夫人令嬢等にも會ひ、又々1924年當時のスペインの話などした。17時歸宿。

18時、大學で第3回講演、題は“日本の天文學の過去と現在”。富田氏が之れを日本語から西語に譯して下さる。昨日や一昨日の時と同様、之れは市内外にも講堂から放送された。

山本邦之助氏が平洋丸で日本からペルーに歸航の途にあることが知れた。來7月早々當地に着せらる豫定である。

## 6月22日(火曜日)

18時から大學講堂で、今日のは最終講演。題は“ペルーに於ける天體觀測の世界に對する貢獻”。少し立ち入った専門講演であるが、英語で講じ、バラレソ助教授が西語に譯された。

## 6月23日(水曜日)

アレキパの天文臺跡訪問のため、朝9時、特別仕立のフォセト飛行機で出發する。ロタルデ海軍大佐、デアンデラス陸軍中佐、モスタホ教授、スワレス陸軍少佐及び橋本君同行。此の旅はサンマルコス大學が自分を學賓として、費用全部を負擔されるので、感謝に堪えない。

11時頃、ナスカに一時着陸休息の後、又飛び、14時無事アレキパ着。同地の

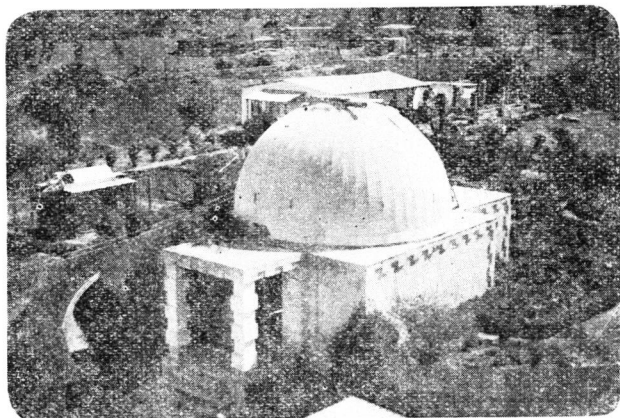
大學總長兼日本名譽領事ゴメズ博士、縣知事、其他官民多數の出迎へあり、ホテル・スクールに入る。

18時、名譽領事邸宅で盛大なレセプションがあり、官民の有力者と、日本人會員數十名來會。

20時から又アレキパクラブでゴメズ氏の招宴が開かれ、22時歸宿した。

6月24日(木曜日)

アレキパは、リマに比べて少しく寒いが、しかし開きしにまさる良い天氣で、晝も夜も



アレキパ天文臺跡のドーム

空は勿體ないほど美しい。今日は、豫定の如く、10時に宿を出で、市外カルメン・アルトにある元の天文臺の跡を訪ねる。ゴメズ大學總長、ニコルソン教授、其の他——全部で10人ばかり、永くハーヴェッド天文臺のために此の天文臺で働いたムニス老人も呼んで來て貰つて、いろいろ昔の話など聞いた。

此のアレキパの天文臺は1890年頃にピケリング教授の創意で建てられたもので大小多くの望遠鏡により主として南天の寫眞研究を三十數年間やつた所であるが、近年之れは南アフリカに移されたので、器械の大部分は運び去られ、今は只、敷地と家屋等がギブソン氏に買ひ取られたまゝ、残つてゐる。住宅は可なり大きく、今尚ほ立派に使へるもので、現にギブソン氏の雇人たちが番をしてゐる。觀測室は何れも多少破れてゐるが、しかし一萬ソリースも費せば修繕が出来る程度である。雨が少いので、ドームなどはカンザスを張つたまゝなのが面白い。自分はハーヴェッド天文臺で主として此のアレキパから送られた寫眞原板を研究資料にした因縁があるので、見るもの皆感慨が深い。

天文臺の視察をすまして、一同は縣知事を廳舎に訪ひ、それから今落成したばかりの新兵舎を見、ついで、30軒ばかりをドライブして、ソコサニ温泉で午

餐を饗せられ、歸途はユラ温泉にも立ち寄り、17時に宿へ歸つた。

夕刻、日本人會の人々が數人來訪せられ、當地の種々の話を聞く。21時から又クラブで晚餐を頂く。

#### 6月25日(金曜日)

9時55分アレキパ飛行場から出發、リマへ歸途に就く。縣知事、大學總長、市長、其の他多くの人々に見送られた。正午頃、ナスカ附近で、デアンデラス中佐と共に、地上の不思議な直線形の寫眞をとる。中佐は之れが昔しのインカ人たちの天文曆表の遺跡であると言はれるが、何としても神秘的なもので、研究を要する。

14時、リマ着。今夜は早く休む。

#### 6月26日(土曜日)

サンマルコス大學のため新天文臺建設の計畫があるので、今日から其のためにガルシヤ博士たちの相談相手となるやう依頼された。そこで今日は先づ12時から大學へ行つて諸教授や委員たちと協議の上、第一に目下新建築中の大學校舎の敷地内に適當なものがないかといふことを視る 目的で一同と共に出かけた。一應この敷地を見た後、5人づれでラカパニャ亭で午餐を饗せられ、16時歸宿。

引きつゞき、デアンデラス中佐、佐藤氏、福島通譯官、富田氏、池山氏、ガルシヤ博士等が順次來訪せられた。誠に多忙な一日であつた。

#### 6月27日(日曜日)

昨日の天文臺敷地調査の續きで、今日は朝8時半、各委員たちと共に2臺の自動車で郊外をドライブすることとし、先づラモリーナを見、それからチョシカ、マツカーナあたり運行つた。結局、ラモリーナ附近が最も良からうといふ意見が多い。14時歸宿。

16時、中央日本人會主催の講演會が日本人小校學で準備されてゐるので、臨場し、約一時間、日食に關する講演をした。來會者極めて多數で、殆んど入場し切れないほどであつた。

20時から、中日會の慰勞晚餐會に招かれ、21時歸宿した。

柴田堀井兩君は、去る24日以來、岸氏に連れられ、中央山脈地方を巡遊中で

あつたが、今夜無事歸宿した。いろいろ珍しい所を見て來たらしい。

**6月28日(月曜日)**

朝11時、約束により、橋本君と2人で陸軍地理局を訪ひ、局長デアンデラス中佐と會見、種々の地圖や、器械等を見せられた。50年前太平洋岸各地を天測して巡つた米國デギス時代の器械を見たのは意外であつた。我が日本も明治20年代に此の種の器械で經緯度の觀測が行はれたのである。

午後は、15時から柴田堀井兩君を連れて、中日會や兩邦新聞社等へ別れの挨拶をしに行つた。それから、19時半には一同池山氏方に招かれて、晚餐を饗せられた。

**6月29日(火曜日)**

すつかり雨期で、毎日曇天。それに、寒い。

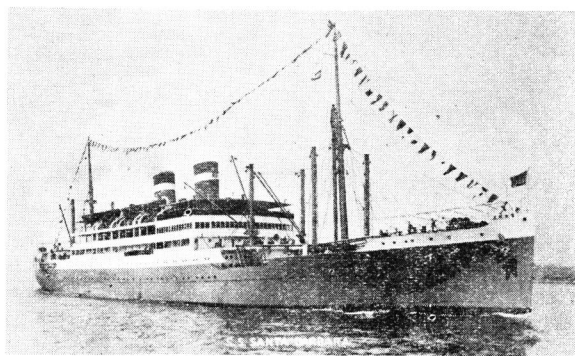
15時、岸氏方のパーティに招かれ、多くの新舊友人たちと別れの挨拶をした。宿では、出發が間近なので、3人何れも荷物の整理に忙しい。

**6月30日(水曜日)**

ブラジルから吾々一行の來伯を待つ公私の要求が來てゐるが、朝10時、柴田堀井兩君をつれ、サンマルコス大學へ別れの挨拶に行く。ガルシヤ博士しきりに別れを惜しむ。

15時、自分は又大學へ行き、ペルイ隊の日食觀測報告のため第一回委員會に出席し、報告書の發表方法について、意見を交換した。

18時から、吾々四五人だけで別れの晚餐。20時からラルコ名譽領事等と共に柴田堀井兩君をカヤオ港内のサンタ・バーバラ號まで送つて行つた。同船は夜半にニウヨークへ向け出帆する筈。吾々は22時ホテルに歸つた。



グレース社船「サンタ・バーバラ號」

**7月1日(木曜日)**

チンボテの日本人會訪問のため、10時、フ、セト飛行機で獨り出發した。此の度は途中でカスマに數分間着陸したので、以前からやかましく喧傳せられた“日食”のカスマ町も一寸見たわけである。12時、チンボテ着。日本人代表者や、昨日先着された岸氏、それに當地の市長や其の他の有力者と面會し、直ちに日本人小學校へ案内され、そこで挨拶やら演説などした後、14時に市内の澤尾氏方に於いて休息、15時に午餐を饗せられた。

16時過ぎ、山本邦之助氏一行を載せた平洋丸が入港し、山本氏一行は一寸上陸されたので、3ヶ月ぶりの挨拶をし、共に市内を暫くドライブした後、18時、共に乗船した。自分も此のまゝカヤオ港までの船客となる。又、此の船に、此所からワンチャコの觀測で使用した75耗の望遠鏡を積み込む。リマに運んで、大學に寄贈するためである。船は19時出帆した。

**7月2日(金曜日)**

正午、平洋丸はチャンカイ港に入る。午食後、山本邦之助氏等一行と共に上陸し、ワラスヤ、レテスの綿花耕地を見た。珍らしい見學であつた。

18時半、船に歸り、船は夜半出帆した。

**7月3日(土曜日)**

船は早朝カヤオ港に着いた。一般乗客の上陸は10時頃になりさうなのだが、自分は急用があるので、船長や港務官の特別の厚意により9時上陸、直ちにリマのホテルに歸つた。

17時半、サンマルコス大學で日食報告書第2回委員會があつたので出席し、第二次報告書作製の件、及び、天文臺建築提議の件等決定した。

20時、山本邦之助氏一行の歸着歡迎會に出席。同時に平洋丸高級船員たちも此の席に招かれ、盛大な晚餐會であつた。

夜は宿で荷作り。

**7月4日(日曜日)**

朝9時半、山本邦之助氏と共に教會へ行き、11時半からは更に中央日本人會を訪ね、會長始め役員たちに感謝と別れの挨拶をした。

16時にはホテル・マウリにラルコ氏を訪れて、別れの挨拶をする。次で16時

半にはミス・A・ジョンソンを訪ねて、同女史がワンチャコで書いたコロナの繪を見、17時には橋本氏と共に郊外バランコ町にデアンデラス申佐の邸宅を訪ねた。可なり忙しい日であつた。

### 7月5日(月曜日)

今日は出発の日なので、早朝からロセンブラト教授、ガルシヤ理學部長、ロタルデ大佐、ガマラ博士、池山氏、山本邦之助氏、黒飛中日會長等が來訪せられ、何れも別れの挨拶を交した。

10時、ラルコ名譽領事の車に乗つて宿を出發、途中、帝國公使館に寄つて、代理公使始め職員諸氏に挨拶し、11時パナグラ飛行場に行つたが、アレキパ方面から飛來する飛行機が一時間も遅れたので、待合室で見送りの人々と長く別れを惜んだ。

正午、いよ々々シコルスキ水陸兩用機“Santa Maria”號が到着したので直ちに乗り込み、首尾よく離陸、リマを出發した。

14時、トルヒヨに僅々2分間着陸、日高小出其の他諸氏及び陸軍司令官ボロネン氏に見送られた。此れより、飛行機はチクラヨ、タララに寄り、18時には早くもエクアドル國のガヤギル市に到着。税關検査の後、グランドホテルに投宿。圖らずも當地の佐藤氏の訪問を受けた。

急に暑くなつたので、今夜、冬服から夏服に變へる!! (つづく)

### 大阪プラネタリウムの特別講演

大阪四ツ橋のプラネタリウムでは、去る3月より毎月第2、第4水曜日16時より、次のやうに山本一清博士の特別講演が行はれてゐる。

- 第1回 3月9日「太陽黒點から地球への影響」 各方面よりの研究によつて
- 第2回 3月23日「地球世界の恵み」 他の遊星と比較して人間生活に對する地球の恩恵
- 第3回 4月13日「太陽系の起原」 カント・ラプラス以來の學說の變遷に従つて
- 第4回 4月27日「天體の進化」 太陽系の進化と恒星宇宙の進化
- 第5回 5月11日「實用的な天文學」 曆と時、經緯度、太陽熱、電磁波、等
- 第6回 5月25日「東洋の天文學」 支那を源泉とする東洋天文學の特徴
- 第7回 6月8日「宇宙の旅」 最近の研究を基として想像の翼を擴げん
- 第8回 6月22日「星の數と分布」 統計に現はれた大宇宙の姿